

名張市教育振興基本計画

**名張市子ども教育ビジョン**  
**平成25年度進捗状況報告書**

平成26年12月

名張市教育委員会

## はじめに

### 1 名張市子ども教育ビジョンの策定

名張市教育委員会では、『夢をはぐくみ心豊かでいきいきと輝く「ばりっ子」』を、目指す子ども像に掲げ、教育振興と新たな教育課題を解決するため、平成22年10月に名張市教育振興基本計画「名張市子ども教育ビジョン」を策定しました。

この教育ビジョンでは、「夢に向かって主体的に学び続ける子ども」、「人間性豊かでたくましい子ども」、「郷土の自然や伝統・文化を愛し郷土を誇れる子ども」、「人とつながり支え合い高め合う子ども」の4つの具体の姿を定め各種施策を推進しています。

### 2 名張市子ども教育ビジョンの進捗状況

この平成25年度進捗状況報告書では、教育ビジョンに掲げる施策の進捗状況や取組の実績、今後の取組方針について記載しました。

平成25年度末の25施策指標の平均進捗率は61.1%で、中でも「名張市教育センターで開催した講座に満足している教職員の割合」、「会議の回数や時間の削減率」や、「地域子育て支援事業における相談件数」など10指標は、最終年度（平成27年度）を待たずに、既に目標を達成しております。平均進捗率は、昨年比1ポイント上昇しましたが、策定後4年目の進捗としましては、少し鈍っていると考えております。

また、進捗率が50%に達していない指標は、「小中学校の教育環境に満足している市民の割合」など11指標あり、中でも『国語、算数の授業が、「よくわかる」、「どちらかといえばよくわかる」と答えた子どもの割合（小6）』の進捗率が0%という結果になりました。

### 3 今後の方針

名張市教育委員会では、義務教育9年間を見通した確かな学力の育成を目指した小中連携を推進し、教育の系統性を意識した授業改善や、児童生徒の学習意欲の向上などの成果を実感しているところです。

今後は、全国学力・学習状況調査やQ-U調査などの調査結果も踏まえ、これまでの取組を検証し、「より楽しく、よりわかる授業を創造する学校づくり」をさらに進めるとともに、教職員の資質向上や保育所（園）・幼稚園、小学校や中学校の途切れのないシステムの再構築など、教育環境や教育条件の整備に全力で取り組めますので、引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

# 目次

## 基本方向1

### 生きる力をはぐくむ教育の充実

- 施策1：就学前教育保育から一貫し、連続した育ちを支えるしくみの構築・・・P1
- 施策2：確かな学力の定着・向上と指導方法の工夫・改善・・・P3
- 施策3：豊かな心と健やかな体の育成
- (1) 豊かな心の育成・・・P5
  - (2) 健やかな体の育成・・・P7
- 施策4：今日的な課題解決のための教育の推進
- (1) 個々のニーズに応じた特別支援教育・・・P9
  - (2) 安心して学校生活をおくることができる学校での居場所づくり・・・P11
  - (3) 社会の変化や国際社会に対応できる子どもの育成・・・P13

## 基本方向2

### 教育を支える環境の整備

- 施策5：学校の組織力と教職員の指導力の向上・・・P15
- 施策6：家庭の教育力の向上・・・P18
- 施策7：子どもが安全・安心に生活できる教育環境の整備・・・P20
- 施策8：施設設備の整備と充実・・・P22
- 施策9：学校の規模・配置の適正化の推進・・・P23

## 基本方向3

### 学校、家庭、地域をつなぐ拠点づくり

- 施策10：地域人材の発掘・養成と支援のためのシステムづくり・・・P25
- 施策11：教育支援の拠点としての（仮称）名張市総合教育センター構想・・・P27  
の実現

## 基本方向1

# 生きる力をはぐくむ教育の充実

### 施策1：就学前教育保育から一貫し、連続した育ちを支えるしくみの構築

#### 1. めざす姿

小学校入学時の教育課程や教育環境が保育所（園）・幼稚園からの連続性に配慮されているだけでなく、就学前の子どもと小学生の交流、保育士・教職員・保護者どうしの交流が進み、子どもが小学校の環境にスムーズに適応し、入学時から安心して学校に通っています。また、中学校の教職員による小学校への出前授業や、小学生の中学校の授業や部活動の体験、小中学校の行事等の交流も進み、小中学校の教職員や保護者どうしのつながりが構築され、中学校入学時から安心して学校に通っています。保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の保育士・教職員や保護者が相互に連携し、信頼関係を構築し、校種がかわっても、子どもたちが安心して学校生活をおくることのできる体制が整っています。

#### 2. 重点目標

小・幼・保連絡会議の開催、教職員と保育士等が合同で行う研修や研究、交流会を充実させ、子どもの実態やそれぞれが取り組む教育保育の状況についての情報交換や情報共有を活発に行い、連続した育ちを踏まえた教育保育を推進します。就学前教育保育から小学校教育への円滑な移行をめざし、就学前の子どもと小学校の児童との積極的な交流を推進します。

#### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
小中学校の教育環境に満足している市民の割合（%） ※市民意識調査より	目標	—	—	62.0	—	—	65.0	—
	成果	59.2	59.6	60.2	60.8			27.6

#### 【進捗率とは】

名張市子ども教育ビジョンに位置付ける施策指標（目標値）に対し、当該年度（実績値）が名張市子ども教育ビジョン策定時（現状値）からどれだけ伸びているか（減っているか）指標の進み具合を数値化しています。

<計算式>

$$\frac{\text{実績値 [2013(平成25)年度]} - \text{現状値 [2008(平成20)年度]}}{\text{目標値 [2015(平成27)年度]} - \text{現状値 [2008(平成20)年度]}} \times 100$$

#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・幼稚園要領検討委員会を設置し、三重大学准教授監修の元、名張市版「幼稚園教育課程」を作成しました。就学前教育から小学校教育へのスムーズな移行を行うため、幼稚園教育課程には、領域と小学校学習指導要領の各教科との関連についても盛り込みました。
- ・三重大学准教授を講師に招き、保育所（園）、幼稚園、小学校の合同の研修会を実施しました。（3回）
- ・中学校の教員による小学校への出前授業を実施しました。
- ・小学生による中学校体験入学を実施しました。
- ・幼稚園、小中学校教職員合同のプロジェクト研究を実施しました。  
研究テーマ：ともなうて変わる数と量について語り合える子どもの育成 ～数量関係を中心に～  
構 成 員：幼稚園教員2名、小学校教員2名、中学校教員2名
- ・幼稚園、小中学校教職員合同の学校・園教育研究推進委員会を開催しました。（5回）
- ・名張市学校・園美術展覧会を開催しました。（鑑賞者数 3,502人）
- ・子育て研修会を実施しました。（1回、参加者数 64人）
- ・家庭教育連続講座を実施しました。（4回、参加者数 94人）
- ・スムーズな移行を目的とした、小学校教員による幼稚園の参観ならびに幼稚園教員との情報・意見交換会を実施しました。

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・小学生がより安心して中学校に入学できるよう、中学校における体験入学、体験活動等を中学校区ごとの連携を深めながら、その充実を図ります。
- ・校種を超えて教育課題を共有することができるよう、幼稚園と小中学校の教職員が合同で研究に取り組みます。
- ・小学校低学年児童が、集団生活や一斉授業になじみにくい実態があり、就学前の子どもと小学校の児童との交流をさらに進めていく必要があります。
- ・地域、市民向けの講座を開催し、家庭教育の必要性について、学習を進めます。また、男女がともに家庭教育について考えられるよう、「ワーク・ライフ・バランス」冊子を作成し、啓発を進めます。
- ・家庭教育連続講座をリーダー研修と位置づけ、講座修了者が各公民館や、学校PTA懇談会等で家庭教育学級、講座のリーダーとして家庭教育の場の提供を行えるようにしていきます。

## 基本方向1

### 生きる力をはぐくむ教育の充実

#### 施策2：確かな学力の定着・向上と指導方法の工夫・改善

##### 1. めざす姿

教室では、一人ひとりの子どもの発達や理解度に応じたきめ細やかな指導が行われています。保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校等の連携が図られ、一人ひとりの子どもの学力にかかる課題を共有しあい、その解決に向けた指導方法の工夫と改善が図られています。それにより子どもたちは意欲的に学習し、基礎的、基本的な学力はもとより、自ら課題を見つけて解決する力や、活用力、表現力等の確かな学力を身につけています。また、「教育フォーラム」、公開研究会、学校・園教育研究集会等を通して市内外に広く発信し、教職員間の交流が進み、指導力が向上しています。

##### 2. 重点目標

児童生徒の学力、生活状況を把握、分析し、指導体制の充実や指導方法の工夫、さらに、子どもの状況に応じたきめ細やかな指導を進めます。

##### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
学生ボランティアの配置人数 (人)	目標	—	—	30	—	—	50	—
	成果	※13	4	15	15			5.4
学習サポーターの配置人数 (人)	目標	—	—	28	—	—	30	—
	成果	※23	10	27	26			42.9
国語、算数の授業が、「よくわかる」、「どちらかといえばわかる」と答えた子どもの割合（小6） (%)	目標	—	—	83.0	—	—	86.0	—
	成果	81.1	#—	83.7	81.0			0
国語、数学の授業が、「よくわかる」、「どちらかといえばわかる」と答えた子どもの割合（中3） (%)	目標	—	—	75.0	—	—	80.0	—
	成果	69.1	#—	70.7	74.1			45.9

注) ※は、平成21年度末の値です。

#は、平成23年度は全国学力・学習状況調査は実施されませんでした。



#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・全国学力・学習状況調査を実施（小6、中3）しました。（1回）
- ・名張市「学力・体力」調査活用検討委員会を実施しました。（5回）
- ・学力向上モデル校における授業研究を実施しました。（モデル校1校）
- ・名張市学力調査及び学習生活アンケートを実施（小4、中1）しました。（1回）
- ・学力向上実践交流会を実施しました。（1回）
- ・県教育委員会へ加配教員を要望するとともに、配置された職員を有効的に配置しました。
- ・学力向上実践推進校をはじめとする加配教員の増員や、学習サポーター、ボランティアによる学習支援をしました。
- ・中学校区別における重点課題の解決に向けた意見交換をしました。  
（全中学校ブロック 各1回）
- ・学校・園教育研究推進委員会を開催しました。（5回）
- ・学校・園教育研究集会を9ブロックに分かれて開催しました。
- ・名張市学力向上研修会を実施しました。（2回）
- ・学校の校内研修を充実させ、学校組織としての取組とするために、各校の研修の中心である教育研究推進委員を対象とした研修会を1回実施しました。

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・学校組織としての取組がより充実したものとなるよう、各校管理職をはじめ、希望者を対象とした研修会を1回実施しました。研修アンケートには「様々な角度から言葉の力を育む手だてを具体的に学ぶことができた」「年齢、経験、校種等、様々に違う先生方とのグループワークは大変有意義であった」等記述があり、実践していく上での多くのヒントを学ぶ機会となりました。
- ・名張市学力向上アドバイザーを講師として、モデル校（1校）における授業研究を実施しました。（3回）。また、講師による助言、アドバイスにより、授業づくりのポイントをつかむことができ、今後の実践に大いに生かすことができました。
- ・モデル校での取組の紹介や、中学校区別交流会において、より具体的な実践内容、課題、今後の取組などを交流することができました。また、名張市学力向上アドバイザーからの今後取り組むべき事項の提示により、名張市として取り組む方向性を見出すことができました。
- ・各学校の実践を交流し、それを生かして各校の取組を推進することができました。
- ・学力・学習状況を明らかにし、学校・園教育研究推進委員会にて市内幼稚園・小中学校の取り組む方向性を明らかにしました。
- ・今後も名張市「学力・体力」調査活用検討委員会と学校・園教育研究推進委員会との連携を密にし、学力調査の分析結果を基にした、課題解決に向けた具体的な取組の交流を行います。
- ・施策指標の「国語、数学の授業がよくわかる」「どちらかといえばよくわかる」と回答した中学校3年生の割合が平成24年度より高くなっており、また、このことは平均正答率とも相関関係が見られることから、「わかる授業」の創造に向けた授業改善の取組を進めていきます。

## 基本方向1

### 生きる力をはぐくむ教育の充実

#### 施策3：豊かな心と健やかな体の育成

##### (1) 豊かな心の育成

###### 1. めざす姿

一人ひとりの子どもに、その年齢にあわせて、生命や人権を尊重する態度、公共心や規範意識、他人を思いやる心をはぐくまれています。また、日常的に読書に親しむとともに、郷土の自然や文化、歴史に親しみ、郷土を愛し、郷土を語るできるようになっています。

###### 2. 重点目標

家庭や地域と連携し、公共心や規範意識、他人を思いやる心、よりよく生きようとする意欲と実践力をはぐくむ道徳教育を推進します。

名張市子ども条例、名張市人権施策基本計画や学校人権・同和教育推進計画に基づき、生命や人権を尊重する態度、部落問題をはじめとして、あらゆる差別をなくそうとする意欲と実践力をはぐくむ人権・同和教育を推進します。

###### 3. 進捗状況

施策指標 (単位)		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
「自分には、よいところがある」と答えた子どもの割合(自己肯定感の高さ)(小6) (%) ※全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	目標	—	—	45.0		—	60.0	—
	成果	34.3	#—	34.4	36.0			6.6
「自分には、よいところがある」と答えた子どもの割合(自己肯定感の高さ)(中3) (%) ※全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	目標	—	—	30.0		—	50.0	—
	成果	19.1	#—	19.8	28.4			30.1

#は、平成23年度は全国学力・学習状況調査は実施されませんでした。



#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・各校における道徳教育全体計画及び年間指導計画を作成しました。
- ・生徒指導推進委員会を開催しました。（7回）
- ・校外生活指導協議会を開催しました。（7回）
- ・学校人権・同和教育推進計画に基づいた各校・園における推進計画を策定しその推進を図りました。
- ・学校人権・同和教育推進委員会を開催しました。（7回）
- ・各中学校区別研修会等を実施しました。（11回）
- ・部落問題を考える小学生のつどい（中学校区別）を開催しました。（5回）
- ・中学生ヒューマンライツ（人権集会）を開催しました。
- ・人権・同和教育担当者研修会を開催しました。（1回）
- ・すべての学校における人権・同和教育推進のための助言、指導を行いました。  
（人権教育主事）（社会同和教育指導員）（106校）
- ・各中学校区人権教育推進協議会との連携を図りました。
- ・人権週間関連行事（街頭啓発、研修会の実施）等を通しての市民の人権意識の高揚を図りました。
- ・公民館主催の人権講演会での講師等、社会教育における人権・同和教育の推進を図りました。  
（人権教育主事）（社会同和教育指導員）
- ・各学校では、文化祭や学習発表会などの機会をとらえて、地域や保護者へ学習成果を発表する取組を行いました。
- ・教育フォーラムにおいて、学校の取組を市民に発信しました。
- ・学校図書館へ学校図書館運営支援員4名配置し、教育センターを拠点にして市内22小中学校の学校図書館環境を整備しました。
- ・図書館教育の充実を図るため、学校図書館担当者会を開催しました。（2回）
- ・第二次名張市子ども読書活動推進計画評議委員会を開催し計画の進捗を確認するとともに次年度の事業について検討しました。（1回）
- ・副読本「わたしたちの名張市」を市内3・4年生に配付し、社会科や総合的な学習の時間等で活用する中で、郷土の理解を深めました。

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・家庭や地域と連携し、他人を思いやる心や、よりよく生きようとする意欲等を高めるために、平成24年度に名張中学校区、平成25年度に赤日中学校区で、県の事業を受け、子ども支援ネットワーク委員会を設置したことにより、学校と地域住民との連携が一層深まりました。そのことにより学校や地域が居心地のよい場所となり、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高めることができました。次年度以降は、他の中学校区でも設置していく予定です。
- ・小学校の児童の自己肯定感については、進捗率が低い状況にありますが、経年変化をみると、上昇の傾向にあることから、引き続き、道徳教育の充実に努めるとともに、学級満足度調査（Q-U調査）結果の活用等について研修、研究を深めて子どもたちを支援する取組を進めます。
- ・各校における人権・同和教育の推進計画を、学年ごとにつけたい力が明確になるように見直し、取組の目的等を全教職員で確認し、人権教育カリキュラムを見直します。
- ・各学校の発信の機会を充実させるとともに、今後も教育フォーラムにおいて、学校の学習成果等の発信を行います。
- ・第二次名張市子ども読書活動推進計画に基づき学校図書館の整備を進めていきます。また、学校図書館の専任職員としての「学校司書」の配置について検討していきます。
- ・副読本「わたしたちの名張市」を使用するとともに、地域の方々をゲストティーチャーとして招聘することで、子ども狂言等の伝統文化や祭等の地域行事等を積極的に継承できる仕組みを構築します。

## 基本方向1

# 生きる力をはぐくむ教育の充実

## 施策3：豊かな心と健やかな体の育成

### (2) 健やかな体の育成

#### 1. めざす姿

子どもは、すすんで運動に親しみ、心身ともに健康に生きるための自己管理能力を身につけています。保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校の教職員と保健センターが連携しながら、子どもの実態に応じた健康教育・食教育を推進しています。学校と地域のスポーツ団体等が連携して、子どもが多様なスポーツに接する機会が設けられています。なばり総合型スポーツクラブ等による地域におけるスポーツが普及し、生涯にわたって運動に親しむことができる環境が整っています。

#### 2. 重点目標

名張市保健センター、医師会、PTA、名張市青少年育成市民会議等の関係機関と連携、協働して、幼児期から生涯にわたって心身ともに健康に生き続けるための健康教育を推進します。  
また、小学校・中学校において、保護者代表や学校医等で構成する学校保健委員会を充実させるなど、食事、運動、休養、睡眠等の規則正しい生活習慣を確立するための取組を進めます。

#### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
健康福祉部の担当保健師と小中学校との連絡会の実施回数（回）	目標	—	—	全小中学校 年間3回	—	—	全小中学校 年間3回	—
	成果	—	小学校 1校	小学校 1校	小学校 1校			1.5
毎日朝ご飯を食べる子どもの割合（小6）（%） ※全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	目標	—	—	90.0	—	—	93.0	—
	成果	87.2	#—	90.0	88.2			17.2
毎日朝ご飯を食べる子どもの割合（中3）（%） ※全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	目標	—	—	86.0	—	—	90.0	—
	成果	80.9	#—	86.0	88.2			80.2

#は、平成23年度は全国学力・学習状況調査は実施されませんでした。

#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・医師会、歯科医師会、薬剤師会と健康福祉部、教育委員会、学校が連携し学校保健の円滑な遂行及び向上を目的として、名張市立学校保健連絡協議会を開催しました。（1回）
- ・学校保健委員会へ健康支援室の担当保健師が出席しました。（小学校1校）
- ・健康教育の推進のため、学校からの要請に応じて、健康支援室の保健師を派遣し、性教育の授業を実施しました。（中学校5校）
- ・生活習慣病予防の一環として、健康支援室の保健師が出前トークを行いました。（中学校1校）
- ・教育委員会、健康福祉部、歯科医師会が連携し、教育フォーラムにて歯と口の健康に関する啓発を行いました。（1回）
- ・食育担当者会を実施し、小中学校の食育担当者は、学校における食育全体計画、年間指導計画について検討を行いました。また、保育所（園）、幼稚園、小中学校の食育担当者が食育の実践について情報交換し、その成果と課題を共有するとともに、今後の取組について情報交換しました。（2回）
- ・市内小学校3年生、中学校1年生を対象に新体力テストを実施し、その結果分析をもとに各学校の体力推進計画の作成と実施を依頼しました。
- ・保健体育代表者会を開催し、体力向上に向けて各学校で取り組んでいくことについて検討し実践しました。（4回）
- ・平成24年度体力向上学校支援事業実践校（薦原小、蔵持小）の実践発表と参加校の実践の交流を行いました。
- ・体育研修会、実技講習会を開催しました。（3回）

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・健康福祉部の担当保健師と小中学校との連絡会（学校保健委員会）については、各学校からの要請に応じての出席となっています。健康教育推進のためには、学校への積極的な働きかけが必要です。
- ・食育については、保育所（園）、幼稚園、小中学校の実践交流が定着し、異校種の課題共有と連携が進んでいます。今後、市の食育推進計画に則った更なる連携と、保護者・地域住民への啓発が課題となります。朝食摂取状況については、食育担当者だけでなく、養護教諭や各担任等と連携した学校としての取組が進められるよう取り組みます。
- ・体力向上については、新体力テストの結果を学校へ戻すだけでなく、結果を教育委員会で共有し、生涯にわたって運動に親しむことができるよう、子どもが小さな頃から様々なスポーツに接する機会を増やすことが必要となります。部内研修等で横の連携を図ります。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査を行い、その結果を分析して各学校が重点課題を明らかにし、取組を進めます。
- ・小学生男子の体力がやや低い状況が続いていることが課題となっていることから、保健体育代表者会において課題解決への具体的取組を検討し各校で実施していきます。

## 基本方向1

### 生きる力をはぐくむ教育の充実

#### 施策4：今日的な課題解決のための教育の推進

##### (1) 個々のニーズに応じた特別支援教育

###### 1. めざす姿

一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握して、子どものもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善し、克服することをめざした適切な指導が進められています。関係機関との連携を密にし、保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等への円滑な指導や支援の方法等の移行がなされています。また、特別な支援が必要な子どもたちへの理解が正しくなされ、学校間や地域における多くの人たちとの交流が深まり、安心して学べる環境が整っています。

###### 2. 重点目標

一人ひとりの子どもに応じた教育支援計画・個別の指導計画を作成し、保護者の意向もふまえながら保護者理解のもとに、関係機関と連携して、個々のニーズに応じた途切れのない支援を行います。

###### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
特別支援学級に在籍している 児童生徒のうち、個別の指導計 画を保護者の合意のもとに作 成している割合（%）	目標	—	—	80.0	—	—	95.0	—
	成果	※ 73.5	88.9	95.0	92.3			87.4

注) ※は、平成21年度末の値です。



#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・個別の指導計画の作成に関しては、年度初めのコーディネーター連絡会において、各校のコーディネーターに必要性について周知するとともに、チーフコーディネーター会議において、内容を確認しました。
- ・特別支援教育コーディネーター連絡会において研修会を実施しました。またコーディネーター同士の情報交換の場を設定し、各学校の特別支援教育コーディネーターの資質向上を図りました。（6回）
- ・名張市版の特別支援教育支援システムを有効に機能させ、特別支援教育コーディネーターを統括するチーフコーディネーターと、各校の特別支援教育コーディネーターの情報交換を頻繁に行いました。また、発達支援センターの教育専門員による学校巡回、チーフコーディネーター会議における助言を生かし、各校への支援の充実を図りました。
- ・伊賀つばさ学園から助言者を招聘し、概ね隔週でチーフコーディネーター会議を開催し、チーフコーディネーターの資質能力の向上に努めました。（15回）
- ・通常学級の担任等が直接助言をもらえる教育相談会や、相談員が定期的に巡回して支援のあり方に検討を加える特別支援教育充実事業を実施しました。
- ・リーフレット「特別支援教育」を作成し、小学校入学児童の保護者に学校での特別支援教育のあり方や大人の関わり方の重要性を啓発しました。
- ・一人ひとりの子どもに応じた適切な支援ができるよう、自立支援員・学習サポーター等研修会を行いました。（2回）

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・各学校の子どものニーズに応じた支援をしていく力は向上しつつありますが、学校に格差が生じている現状もあります。そこで、個別の指導計画の作成については、「個別の指導計画作成マニュアル」を作成し、個別の指導計画の作成と有効活用について各校の特別支援教育コーディネーターに周知を図りました。さらに、チーフコーディネーターとの連携をより深められるよう、特別支援教育システムについて、第1回特別支援教育コーディネーター連絡会において、各校の特別支援教育コーディネーターに周知を図りました。また、発達支援センターの教育専門員と、より密なる連携を目指しチーフコーディネーター会議において、個別の指導計画やチーフコーディネーターの聞き取りをもとにした、議論を充実させていきます。
- ・保護者の就学に向けての不安の解消や見通しがもてるようにするための教育相談会を実施しました。
- ・特別支援教育充実事業については、事業を受けた学校の支援が充実するだけでなく、年度末にその環流報告会を実施することにより、すべての小中学校にとって学ぶ機会となるよう引き続き実施します。
- ・本年度もリーフレット「特別支援教育」を発行し、小学校へ入学する保護者に学校での特別支援教育のあり方や大人の関わり方の重要性を啓発します。本年度で3年目となりますので、必要に応じて改訂しながら継続していきます。

## 基本方向1

### 生きる力をはぐくむ教育の充実

#### 施策4：今日的な課題解決のための教育の推進

##### (2) 安心して学校生活をおくることができる学校での居場所づくり

###### 1. めざす姿

一人ひとりの子どもに、学校の中で、安心して生活できる居場所があり、悩みがあればすぐに相談できる環境があり、子どもたちは楽しい学校生活をおくっています。

教職員、保護者、関係機関の連携が進み、必要な時に、悩みや情報を共有し、適切な支援体制を迅速に立てることができるようになっていきます。

###### 2. 重点目標

学級満足度調査（Q-U調査）を市内の全ての小中学校で実施し、その結果の活用等について研修・研究を深めて子どもたちを支援することにより、一人ひとりの子どもにとって居心地の良い学級集団づくりを進めます。

###### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
市内小中学校不登校児童生徒 の割合（出現率）（%） ※ダウン指標	目標	—	—	1.4	—	—	1.1	—
	成果	1.5	0.9	1.1	1.1			100.0
学級満足度調査による満足群に いる児童生徒の割合（%）	目標	—	—	60.0	—	—	65.0	—
	成果	※ 56.5	60.1	60.6	63.6			83.5

注）※は、平成21年度末の値です。



#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・教育相談担当者会議を開催しました。（3回）
- ・Q-U調査を実施しました。（2回）
- ・学級満足度調査活用検討委員会を開催しました。（2回）
- ・研究指定校の研修会に指導主事を派遣しました。（5校）
- ・生徒指導推進委員会を開催しました。（7回）
- ・外部講師を招聘しての教職員研修会を実施するとともに各校の取組について意見交流しました。（3回）
- ・名張市要保護児童対策及びDV対策協議会事務担当者会議に参加し、情報交換、情報共有を行いました。（5回）
- ・支援が必要な子どもや家庭に対して、関係機関等と連携してケース会議を開催し、適切な支援等について協議しました。（18回）
- ・適応指導教室は、児童生徒の学校以外の場での居場所を作る取組として、月1回の体験学習を行いました。また、人との出会いの場を設けることにより、集団活動のスキルアップを図りました。
- ・「担任会」を実施し、担任と適応教室指導員の連携を深めました。
- ・名張市子どもセンターに集結した相談機関が連携を深めるとともに、臨床心理士等の専門的な知識や経験を有する者が相談に応じることで、不登校相談等の充実を図りました。
- ・国や県の事業を受けて、市内小中学校にスクールカウンセラーを配置（小学校12校、中学校5校）し、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援体制の充実を図りました。

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・学級満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合が年々上がってきています。調査結果を検証することにより、学校の「めざす児童生徒像」実現に向けた取組の評価とその改善に生かすことができました。また、学級経営をはじめとする集団づくりの指導の工夫と改善やいじめ等の問題行動や不登校の未然防止・早期発見・早期対応にも生かすことができました。
- ・「居心地のよい学級集団」づくりから「学びに向かう集団」「学び合う集団」づくりへの取組を進めていく必要があります。
- ・小中学校の不登校児童生徒の割合が増加傾向にあります。
- ・一人ひとりの子どもにとって「居場所づくり」と「絆づくり」を目指した学校風土づくりや学級集団づくりの取組を進めています。
- ・各学校での学級間、学年間の取組の差をなくし、学校体制（学校ぐるみ）による取組をさらに推進できるように、教職員間の意思統一をするとともに、情報共有を図っていきます。
- ・適応指導教室において、年間14名の児童生徒が通級し、4名が高等学校へ進学、3名が学校へ復帰することができました。
- ・不登校の児童の減少を目指した取組として、すべての子どもを対象としたわかる授業づくりや豊かな人間関係の構築、教育相談の充実などの取組をすることで、未然防止、早期発見、早期対応を図ります。
- ・年間欠席日数15日以上の子どもの児童生徒に焦点をあてて、不登校の未然防止に向けた取組を行います。

## 基本方向1

# 生きる力をはぐくむ教育の充実

### 施策4：今日的な課題解決のための教育の推進

#### (3) 社会の変化や国際社会に対応できる子どもの育成

##### 1. めざす姿

子どもたちは、夢をはぐくみ、それを実現するために意欲的に学習しています。自分の個性を伸ばしつつ、社会に出て自立して生活したり働いたりする力を、発達段階に応じて身につけています。国際的な視野に立ち、どの国の人も垣根なくコミュニケーションを図ろうとする態度が身についています。コンピュータをはじめとする様々なメディアを使いこなし、必要な情報を正しく選び、活用する基本的な力と情報モラルが身についています。持続可能な社会の実現のために、一人ひとりの子どもが環境に配慮し、環境保全のために自分ができることを考えて行動ができるようになっています。

##### 2. 重点目標

小学校の段階から、望ましい職業観・勤労観を身につけるための学習や、職場体験学習を組織的に進めるとともに、自己の個性を理解して、進路を選択する力を育成し、夢をはぐくみ、その実現に向かって主体的に学ぶ子どもを育てるキャリア教育を推進します。

##### 3. 進捗状況

施策指標 (単位)		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
将来の夢や希望をもっている 子どもの割合 (小6) (%) ※全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙 調査より	目標	—	—	70.0		—	80.0	—
	成果	66.8	#—	69.1	69.4			19.7
将来の夢や希望をもっている 子どもの割合 (中3) (%) ※全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙 調査より	目標	—	—	50.0		—	60.0	—
	成果	43.7	#—	41.1	53.4			59.5

#は、平成23年度は全国学力・学習状況調査は実施されませんでした。

#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・職場体験学習担当者会議を開催しました。（1回）
- ・小学校における体験学習を実施しました。（17校）
- ・中学校における職場体験学習を実施しました。（5校）
- ・小学校にALT 3名を配置しました。
- ・中学校にALT 2名を配置しました。
- ・小中連携を目的として、小学校6年生の全クラスに中学校のALTを派遣し、中学校へつながる授業を行いました。（1回）
- ・情報教育推進委員会を開催し、各校に配備されている、電子黒板、大型テレビ等を活用した有効的な授業について情報交換しました。
- ・情報モラル教育について、各校の学校教育計画に位置付けました。
- ・市内6小学校、2中学校がユネスコスクールの認定を受け、持続発展可能な社会の実現のため、地域の自然を活用した教材開発等に取り組みました。
- ・県教育委員会と連携して、環境問題に取り組む企業を学校へ紹介しました。

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・望ましい職業観や勤労観を身につけ、将来の夢を持ち、その実現に向かって主体的に学ぶ子どもを育てるために、小学校においては体験学習を実施し、米作りやブドウ栽培等の農業体験を通して、児童は農家の思いや苦労を実感することができました。
- ・中学校の体験学習においては、職場体験学習を通して、「働くことの喜びや大変さ」「人と人がつながることの大切さ」「感謝の気持ち」「協力することの大切さ」等を学び、将来の自分の仕事について積極的に考えるようになりました。
- ・来年度も引き続き、小学校での体験学習、中学校の職場体験学習を実施します。
- ・小学校へのALT配置により、児童の外国語への慣れ親しみや、英語でコミュニケーションを取ろうとする意欲が向上してきていることから、今後も配置を継続するとともに、有効な活用について検討していきます。
- ・メディア活用については、学校教育における活用方法を研究していくとともに、家庭でのメディアとの付き合い方についても指導していきます。
- ・引き続き県教育委員会と連携し、環境問題に取り組む企業と学校をつなぐ取組を推進します。

## 基本方向2

### 教育を支える環境の整備

#### 施策5：学校の組織力と教職員の指導力の向上

##### 1. めざす姿

保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校等が、子どもにかかるさまざまな情報を発信し、保護者や地域、関係機関は、いつでも学校や子どもの状況を知ることができます。学校の強みを伸ばし、弱みを改善するなど、学校を支援する体制が整い、めざす子ども像の実現に向けた改善が図られ、子どもも教職員もいきいきと学校生活をおくっています。教職員は、お互いに学び合い、広い視野からの専門性を身につけて指導力や見識を広げ、教育に関する熱意にあふれ、わかりやすい授業を行っています。また、魅力ある人間力を身につけ、子どもや保護者との信頼関係が構築されています。教職員のメンタルヘルスクアが充実し、心身ともに健康な状況が維持され、活力に満ちています。

##### 2. 重点目標

名張市教育（研究所）センターにおいて、系統的で多様な教職員研修や、教職員が学び合える講座を企画するなど、教職員の教育指導の改善・充実に努めます。また、教職員が広い見識をもち感性を磨くことのできる研修を企画し、魅力ある人間力・教師力の向上を図ります。さらに、教材や資料、先進校の研究など、必要な情報が手に入る情報センター機能を充実し、教職員の資質向上を支援します。

学習指導や学校経営等にあてる時間を十分に確保するために、会議や行事等の見直し、調査報告等の提出書類の見直しなど、教職員が直面している多忙な勤務状況の改善に、行政と学校が連携して取り組みます。

※平成25年、名張市は名張市教育研究所を拡充、発展させた名張市教育センターを開設しました。

##### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
名張市教育（研究所）センターで 開催した講座に満足している教職員 の割合（%）	目標	—	—	70.0	—	—	75.0	—
	成果	※ 67.0	99.0	98.9	89.8			100.0
会議の回数や時間の削減率 (%)	目標	—	—	5.0	—	—	10.0	—
	成果	0.0	2.0	16.2	15.6			100.0

注) ※は、平成21年度の値です。



#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・学校の組織力向上のために、管理職及びミドルリーダーを対象とした研修会を実施しました。  
(13 講座) (受講者数 425 人)
- ・研修講座を実施しました。(64 講座) (受講者数 1447 人)  
※管理職、ミドルリーダー対象の研修講座を含む。教育講演会を除く。
- ・プロジェクト研究、課題研究、グループ研究を推進しました。
- ・児童生徒支援事業を実施しました。
- ・名張市小中学校音楽会（2 日）、名張市立学校・園美術展覧会（4 日）、もみじのつどい（5 回、参加児童生徒数 272 人）、中学校特別支援学級交流会（2 回 65 人）
- ・教育センターが、必要な情報が手に入る「情報センター」として機能するために、教科書展示コーナーや DVD 視聴コーナーを併設した図書資料室を開設しました。
- ・国・県・市の教育委員会において、調査・報告・会議の回数の削減等に取り組んでいます。しかしながら、回数は削減したものの、調査項目の増加や学力向上のための施策や土曜授業等の新しい施策に係る事務の増加が見られます。
- ・教育センターが開設されたことにより、教育センター運営協議会を実施しました。（1 回）
- ・児童生徒支援事業運営委員会は、名張市の職員全体用フォルダの活用やメール等でのやり取りの工夫で回数を削減しました。（名張市立学校・園美術展覧会運営委員会、名張市小中学校音楽会運営委員会、もみじのつどい・中学校特別支援学級交流会運営委員会 各 1 回ずつ削減）
- ・会議と研修会を合わせて開催し、時間の削減を行いました。（学力向上研修会、学力向上実践交流会）また、資料の事前配布等により、会議の時間を削減するよう工夫しました。
- ・新しい組織の円滑な運営のために必要な会議を行いました。（代表委員会 3 回、グループ研究部会代表者会 3 回、保健体育担当者会代表委員会 2 回、教育講演会についての打ち合わせ会 1 回）
- ・新たな教育課題への対応のために必要な会議を行いました。（第二次名張市子ども読書活動推進計画評議委員会 1 回）
- ・各学校においては、学校経営計画にもとづく学校評価を実施し、その評価結果を保護者や地域へ発信するとともに、改善方策を学校関係者評価委員会で協議しました。
- ・学校だよりやホームページを通じて、行事や日常の授業・学校生活の様子について発信しています。
- ・平成 25 年度、メンタルで休職をしていた教職員は 1 名でした。
- ・市内全小中学校において、学校経営方針の中に、過重労働対策を明記するよう働きかけました。
- ・月に 1 回、過重労働対策のため、勤務時間や休暇等の県への報告を市内小中学校に求めながら、その結果を基に、管理職と教育委員会で個々の教職員の労働時間の指導、助言にあたりました。
- ・学校で働く職員の代表である、校長会代表、教職員代表、市職員代表、教育行政代表で構成される名張市職員安全衛生委員会学校部会の中で、職員の勤務状況の改善に向け、検討を進めてきました。
- ・保護者の相談内容や訴えの内容によっては、庁内在中の市の弁護士に相談する機会をもちました。
- ・スクールカウンセラーは、小学校 12 校、中学校 5 校に配置し、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援体制の充実を図りました。
- ・家庭環境に配慮や支援が必要な児童生徒及び家庭については、児童相談所や子ども発達支援センターなどの関係機関、当該校、学校教育室等とケース会議を開催し、適切な支援等について検討しました。
- ・保護者等の相談窓口としては、「よろず相談」を開設し、教育専門相談員や臨床心理士が相談に応じました。

## 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・研修講座を受講しての満足度を把握すると共に、事後の活用度についても把握していく必要があります。
- ・今後、教職員が教育センターにある情報を有効に活用できるように、ホームページや教育センターだよりを通じて発信していくことが必要です。
- ・教職員の指導力向上のために、研修講座のあり方について、模擬授業を参観して研究協議を実施する、学校を会場とする、集団討議を行う時間を確保する等工夫していく必要があります。
- ・さまざまな教育課題のうち、喫緊の課題に対応するために会議のあり方を検討することが必要です。
- ・学校教育室と教育センターが連携し、会議と研修会を合わせて開催する等、会議等のスリム化に向けた工夫が必要です。
- ・引き続き会議の内容の精選を行うとともに、学校からの提出書類等の見直しを行い、事務の効率化を進めることで、教職員が、学習指導や学校経営等に充てる時間を確保できるよう取り組みます。
- ・今後も各学校における学校評価の評価結果を保護者や地域へ発信するとともに、改善についての取組を進めます。
- ・今後も積極的に学校だよりやホームページを通じて、行事や日常の授業・学校生活の様子について発信していきます。
- ・時間外勤務時間や休暇等の結果を基に、管理職と市教育委員会で個々の教職員の労働時間を細かく確認しながら、指導、助言にあたったことや、学校経営方針の中に、過重労働対策を明記することにより、勤務時間の軽減に向けた意識が少しずつ高まり、時間外勤務状況の平均は、他市に比べ少なくなっています。
- ・多忙感をぬぐうことは難しく、教職員の中には、恒常的に過重労働が続いている職員もいることから、平成 26 年度においても、学校、市教育委員会が連携をさらに密にしながら、指導、助言を続けていきます。
- ・これまで続けてきている名張市職員安全衛生委員会学校部会をさらに充実させ、市全体で意識の向上を図りながら、職員の勤務状況の改善に向け、検討を進めていきます。
- ・病気休暇を取得してはなくても、病院を受診している教職員や教育センターの臨床心理士、相談窓口を利用している教職員が少なくなく、管理職による見守りが今後も引き続き必要です。
- ・職場の職員の心の健康が保持増進される職場環境を提供すること、メンタル不調者に適切な援助をしていくことについて、市教育委員会と学校が連携を密にして対応していきます。
- ・今後も様々な対応が求められるので、各学校からの弁護士相談については、仕組みづくりができましたので、活用についての検証をしていく必要があります。
- ・スクールカウンセラーの有効活用について、実績をもとに検討するとともに、スクールカウンセラーの研修についても国や県の事業を有効に活用していく必要があります。
- ・ケース会議、よろず相談については、より精度をあげていくために、構成員の資質能力の向上を図ります。





## 基本方向2

### 教育を支える環境の整備

#### 施策6：家庭の教育力の向上

##### 1. めざす姿

保護者の子育てに対する不安や悩みに関する相談体制が整備されるとともに、家庭における子育てを地域全体で応援していこうという市民の意識が高まり、安心して子どもを生み、育てる社会環境が整っています。

子どもは温かい家庭においてはぐくまれ、望ましい生活習慣や規範意識、基本的な能力や資質を身につけています。

##### 2. 重点目標

子育てに自信がもてなかったり、子育てに悩む保護者が増えるなかで、気軽に相談できる窓口として、幼稚園や保育所（園）、小中学校、保健センター、児童相談室、子育て支援センターかがやきなどの関係機関が密接に連携して、子どもの発達段階に応じて効果的に相談に対応するとともに、地域における子育て、家庭教育の拠点としての機能も発揮できるよう環境を整備します。

##### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
地域子育て支援事業における 相談件数（件）	目標	—	—	2,000	—	—	2,100	—
	成果	1,800	2,140	2,258	2,289			100.0

#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・生徒指導特別指導員（県教育委員会）、伊賀少年サポートセンター（警察）、青少年補導センター及び適応指導教室（市教育委員会）子ども相談室（名張市）が連携して相談機関打ち合わせ会を実施しました。（月 1 回 年 12 回 相談件数 3,497 件）
- ・要保護児童対策及びDV対策地域協議会（ケース会議）を開催しました。（5回）
- ・地域の広場事業（こども支援センターかがやき）の実施について、地域コミュニティーの拠点である公民館を活用しました。（12の公民館で実施）
- ・子育て研修会を実施しました。（1回、参加者数 64人）
- ・不登校を考える保護者の集いを開催しました。（4回、参加者数 29名）
- ・公民館において、家庭教育学級、講座を実施しました。（13公民館 参加者数2,347人）
- ・地域、市民向け啓発冊子を作成し、配布をしました。（年間700部）
- ・企業啓発として、事業所の訪問を行いました。（206事業所）
- ・家庭教育連続講座を実施しました。（4回、参加者数 94人）

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・教育よろず相談をはじめ、市内に8か所の相談窓口を設けており、幅広く相談を受けることができます。また、相談内容によって、窓口が連携する事により、きめ細かな対応を行っていきます。
- ・マイ保育ステーション事業や地域の広場事業等、各地域において子育てについて、気軽に話をできる場を提供していきます。
- ・地域、市民向けの講座を開催し、家庭教育の必要性について、学習を進めます。また、男女がともに家庭教育について考えられるよう、「ワーク・ライフ・バランス」冊子を作成し、啓発を進めます。
- ・家庭教育連続講座をリーダー研修と位置づけ、講座修了者が各公民館や、学校PTA懇談会等で家庭教育学級、講座のリーダーとして家庭教育の場の提供を行えるようにしていきます。

## 基本方向2

### 教育を支える環境の整備

#### 施策7：子どもが安全・安心に生活できる教育環境の整備

##### 1. めざす姿

市内のすべての学校において、防災、防犯のための施設整備が計画的に進んでいるとともに、ユニバーサルデザインの視点から必要な設備の充実が図られ、学校が子どもにとって、より安全で安心な楽しい学びの場となっています。

また、学校における危機管理体制や子どもが安心して登下校できる地域の見守り体制が確立しています。

##### 2. 重点目標

学校施設が災害発生時における子どもの安全確保と地域住民の避難所としての機能を果たすことができるよう、耐震化計画に基づき、校舎、屋内運動場等の耐震補強工事を進めます。また、危険性、緊急性、必要性等を考慮して計画的に施設の維持管理を行うとともに、ユニバーサルデザインへの対応など、全ての子どもにとって安全でやさしい学校施設の整備を進めます。

学校とPTA、地域づくり組織や警察等の関係機関、安全ボランティアや子どもを守る家など、さまざまな地域の組織や個人が連携して、学校における防犯、交通安全等の学習や行事を支援し、学校の危機管理についての理解を深めるとともに、子どもの健全育成、児童虐待の防止、不審者対策等の観点から、地域を挙げて組織的に子どもを見守り育てるシステムを構築します。

##### 3. 進捗状況

施策指標 (単位)		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
小中学校の学校耐震化率 (%)	目標	—	—	72.0	—	—	76.0	—
	成果	63.8	74.7	77.1	79.2			100

##### 4. 取組内容（平成25年度）

・次の2施設について、耐震補強による安全の確保とあわせて大規模改修においては環境の整備、ユニバーサルデザインへの配慮を盛り込んだうえで、時代に合った施設、設備にリフォームしました。

《施工実績》 薦原小学校屋内運動場、つつじが丘小学校管理特別普通教室棟

・名張市青少年育成市民会議、名張市青少年育成推進員や警察等の関係者等、青少年健全育成活動に取り組んでいる組織を結集し「なばり少年サポートふれあい隊」を組織し、1年間を通じてパトロールを行いました。(延べ1,083人の参加)

- ・有難の際こどもが逃げ込める家として、地域の協力を得て「子どもを守る家」の登録をしました。(登録者 1,646 件)
- ・市内各小中学校の危機管理マニュアルを作成し、教育計画に位置付けました。
- ・学校安全対策会議を開催しました。(2回)
- ・「小中学校における災害時の対応」について、学校、行政、地域が連携したワークショップを開催しました。(4回)

## 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・平成 25 年度に国の指導もあり、平成 27 年度での耐震化完了（耐震化率 100%）を目指して取り組むことになりました。これまで耐震補強工事とあわせて大規模改修工事を進めてきましたが、平成 26 年度・27 年度の 2 ヶ年間で 10 校 16 棟の施工が必要となるため、まずは、地震発生時の児童生徒の安全並びに地域住民等の避難所としての機能の確保が急がれることから、耐震補強工事を最優先した施工とします。
- ・大規模改修もあわせて施工する施設については、これまでと同様に環境の整備、ユニバーサルデザインへの配慮を盛り込んだうえで、時代に合った施設、設備にリフォームする予定です。

### 施工計画

【平成 26 年度】 7 校 10 棟（赤目中学校は～27 年度の 2 ヶ年事業）

- ・薦原小学校 : 管理普通教室棟耐震補強工事
- ・美旗小学校 : 屋内運動場耐震補強・大規模改修工事（\*H27 校舎）
- ・箕曲小学校 : 管理普通教室棟耐震補強工事
- ・桔梗が丘小学校 : 管理特別普通教室棟外（2 棟）耐震補強工事
- ・桔梗が丘東小学校 : 屋内運動場耐震補強・大規模改修工事  
管理特別普通教室棟耐震補強工事
- ・桔梗が丘中学校 : 管理普通教室棟外（2 棟）耐震補強工事
- ・赤目中学校 : 管理特別教室棟耐震補強・大規模改修工事（\*H26、27 の 2 ヶ年事業）

【平成 27 年度】 5 校 7 棟

- ・比奈知小学校 : 管理特別教室棟耐震補強・大規模改修工事
- ・美旗小学校 : 管理特別教室棟耐震補強・大規模改修工事（\*H26 体育館）
- ・桔梗が丘南小学校 : 屋内運動場耐震補強・大規模改修工事  
管理特別普通教室棟耐震補強工事
- ・北中学校 : 昇降口棟耐震補強工事  
屋内運動場耐震補強・大規模改修工事
- ・赤目中学校 : 管理特別教室棟耐震補強・大規模改修工事（\*H26、27 の 2 ヶ年事業）

【計】 10 校 16 棟（\*美旗小学校、赤目中学校は両年度とも施工）

- ・「少年サポートふれあい隊」や、「子どもを守る家」等の地域を巻き込んだボランティア活動が積極的に行われています。今後も事業を継続すると同時に、学校、地域が連携して、組織的に子どもを見守り育てるよう取り組んでいきます。
- ・市内各小中学校の危機管理マニュアルについては、毎年見直しを行います。
- ・学校安全対策会議を引き続き開催し、教職員の危機管理意識を高めるとともに、発生時に迅速かつ適切に対応できる危機管理能力の向上を図っていく必要があります。
- ・「小中学校における災害時の対応」について、ワークショップを開催することで、実際の災害時におけるそれぞれの役割の確認と、課題点について検討することができました。

## 基本方向2

### 教育を支える環境の整備

#### 施策8：施設設備の整備と充実

##### 1. めざす姿

多様なニーズに対応した教材や設備が整備され、子どもが、質の高い充実した教育環境の中で学んでいます。

また、学校事務処理の見直しや情報化による事務の効率化が進み、教職員が、子どもと向き合う時間が確保されています。

##### 2. 重点目標

効率的な予算運用をめざし、必要な施設設備や学習教材、備品等をより効果的に拡充できるよう、創意工夫により予算の計画的な執行に努めます。

##### 3. 進捗状況

施策指標 (単位)		H20 末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
教育（児童生徒）用パソコンの 配備（パソコン1台あたりの児 童生徒数）（人） ※ダウン指標	目標	—	—	—	—	—	10	—
	成果	20	18	18	18			20.0
校務（教職員）用パソコンの配 備（教職員1人1台パソコンの 充足率）（%）	目標	—	—	100	—	—	100	—
	成果	26.3	100	100	100			100.0

##### 4. 取組内容（平成25年度）

- ・学校現場で必要な学習教材・備品等を効果的に拡充できるよう、学校配当予算の確保に努めました。
- ・現在ある施設設備や学習教材、備品等を効果的に活用するための研修会（情報教育推進委員会）を実施するとともに、各学校の情報モラル教育年間指導計画を交流しました。（3回）
- ・学校事務の見直しによる事務の効率化の取組として、中学校における通知表の電子化を行いました。
- ・教育センターへハイブリッド型パソコンを41台配備し、週末教育事業や事務職員研修、プロジェクト研究等で活用しました。

##### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・厳しい財政状況から、児童用パソコンの増設はできませんでした。今後も、効率的な予算執行と計画的な予算獲得により、児童生徒に適切な情報機器環境を整備する必要があります。
- ・情報モラル教育について、各学校の年間計画の交流を行い、よりよい情報モラル教育の推進の一助とすることができました。今後は、教育センターにおけるプロジェクト研究で先進的な情報教育の取り組みを発信する等情報教育の一層の進展を図る必要があります。
- ・学校事務の見直しによる事務の効率化にむけて、小学校の通知表についても電子化していく予定です。





## 基本方向2

### 教育を支える環境の整備

#### 施策9：学校の規模・配置の適正化の推進

##### 1. めざす姿

学校規模・配置の適正化が地域住民の理解のもとに進んでおり、教育の機会均等や教育水準の確保が図られるとともに、教育効果を高めるための取組が拡充され、子どもがより質の高い充実した教育環境の中で学んでいます。

また、学校、家庭、地域が連携、協働し、地域全体で学校を支える環境が整備され、地域の中で子どもが健やかに成長しています。

##### 2. 重点目標

教育の機会均等や教育水準の確保、教育の質の向上を目的として、「名張市立小中学校の規模・配置の適正化基本方針」に基づき、保護者や地域住民、学校関係者等との合意形成を基本として、学校の統廃合及び校区の再編に取り組みます。

##### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20 末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
小中学校の規模・配置の適正化	目標	—	—	規模・配置 の適正化 の具体化 を進める	—	—	規模・配置 の適正化 を段階的 に進める	—
	成果	校区再編 検討委員 会での議 討、提言	予定通 り進捗	予定通 り進捗	3校を 統合 (予定通 り進捗)			100.0

##### 4. 取組内容（平成25年度）

- ・「名張市立小中学校の規模・配置の適正化前期実施計画」に基づく実施状況を市議会教育民生委員会へ報告しました。（3回）
- ・「名張市立小中学校の規模・配置の適正化前期実施計画」に基づく実施状況を市議会全員協議会へ報告しました。（2回）
- ・国津・錦生・滝之原・赤目地区において統合準備協議会等を開催しました。（43回）
- ・統合校による事前交流学习を実施しました。（32回）
- ・三重県教育委員会に加配教員の配置、スクールバス運行に伴う補助等に係る要望書を提出しました。
- ・閉校式を開催しました。（3/15 錦生小学校、3/21 赤目小学校、3/23 滝之原小学校、3/29 国津小学校） ※赤目小学校を「錦生赤目小学校」に名称を変更しました。

## 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・前期実施計画に基づき、保護者や地域住民、学校関係者等との合意形成を図りながら、錦生・国津・滝之原小学校の3校を統合しました。
- ・教育の質の向上等の観点から前期実施計画の効果検証を行い、その成果と課題を生かし、後期実施計画（H27～H31）の策定に繋がります。
- ・統合3小学校の学校施設については、企業誘致や地域での活用等、地域活性化の拠点として有効活用できるよう市長部局と連携して進めています。

### 基本方向3

## 学校、家庭、地域をつなぐ拠点づくり

### 施策10：地域人材の発掘・養成と、支援のためのシステムづくり

#### 1. めざす姿

地域づくり組織が中核となって、ボランティアの人材が確保されています。ボランティアの内容に応じて名張市教育研究所が具体的なメニューや人材、活動方法等の情報を提供しています。大人だけでなく中学・高校生のボランティア（ジュニアリーダー）が地域の小学生の活動を支援するなど、世代を超えた連携も進んでいます。

地域コーディネーター、PTA等が学校のニーズに応じて地域づくり組織と連携するとともに、全市的には名張市青少年育成市民会議と地域や各種団体間の連携が進み、さまざまな市民活動を展開しています。

このことにより、学校ではきめ細やかな学習指導、生活指導、環境整備が進められ、学校、保護者と地域が一体となって子どもを安心して育てる基盤ができています。

#### 2. 重点目標

地域づくり組織及び名張市青少年育成市民会議との連携、協働のもと、地域全体で学校を支え、子どもたちを健やかにはぐくむために、地域コーディネーターを配置し、学校生活支援ボランティアの発掘、活用を図りつつ、名張市版学校支援地域本部事業を進めます。

#### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
学校支援地域本部による支援 校数（校）	目標	—	—	15	—	—	19	—
	成果	1	12	18	19			100.0
学校生活支援ボランティアの 数（人）	目標	—	—	550	—	—	600	—
	成果	505	637	637	614			100.0

#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・地域の方が学校を支援する学校支援地域本部事業を実施しました。（17 小学校 2 中学校）
- ・名張市版学校支援地域本部の推進のため、小中学校への説明会を実施しました。
- ・学校生活支援ボランティア研修講座を実施しました。（参加者数 54 名）
- ・図書館ボランティア養成講座を実施しました。（2 講座）
- ・ジュニアリーダー養成講座を実施しました。（2 日 参加者数 20 名）
- ・ジュニアリーダー養成講座を修了した子ども達が活動できる場として、名張 Kids サポータークラブへの支援を行いました。（ボランティア活動回数 11 回/年 主催事業 2 回）
- ・まちづくり組織による放課後子ども教室を実施しました。（4 地区）
- ・名張市青少年育成市民会議による体験教室「子どもなんでも体★験★団」が開催されました。（9 教室 参加者数 531 名）
- ・「学校ボランティア室」設置に向けた検討を行いました。

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・学校生活支援ボランティアの情報交流の場や研修の場の充実が必要なことから、「学校ボランティア室」を開設します。同時に、チーフコーディネーターを配置し、コーディネーターやボランティアの育成を行います。
- ・学校支援地域本部事業について全小中学校での実施を推進します。
- ・週末教育事業や、放課後児童クラブ、放課後子ども教室等の子どもの体験活動に、学生ボランティアが参加できるよう、学生ボランティアの募集や、ジュニアリーダー養成講座を行います。



### 基本方向3

## 学校、家庭、地域をつなぐ拠点づくり

### 施策11：教育支援の拠点としての（仮称）名張市総合教育センター構想の実現

#### 1. めざす姿

名張市教育研究所を拡充、発展させた（仮称）名張市総合教育センター（以下「センター」という。）が開設され、保護者、教育関係者、地域住民等が一体となって子どもの育ちを支援するための拠点施設として、多くの市民、教育関係者に利用されています。

センターには施策の推進に必要とされる専門家等が配置され、乳幼児期から一貫した子どもの発達支援、児童生徒の学びの支援、保護者等の教育相談や子育て支援、教職員の研修や研究の支援、学校生活支援ボランティアの養成、名張の教育の歴史やあゆみを示す教育関係の資料や文献の展示等が行われています。

#### 2. 重点目標

センター構想を検討する委員会を設置して、構想を樹立します。さらに、この構想を具体化するために、子どもに関わる教育、保育、福祉、保健、医療等の関係機関が組織横断的に連携、協働して、施策を一体的に実施する体制の整備を図ります。

#### 3. 進捗状況

施策指標（単位）		H20末 数値	H23	H24	H25	H26	H27	進捗率 (%)
センターの設置	目標	—	—	センター 構想の樹 立	—	—	センター の設置	—
	成果	名張市教 育研究所 機能の拡 充	整備計画 の策定	センター の設置	センター 開設	—	—	100.0

#### 4. 取組内容（平成 25 年度）

- ・平成 25 年 4 月 13 日、名張市教育センターを開設しました。
- ・センターを会場として会議、研修会等を開催しました。（開催回数 256 回、来館者数 8,489 人）
- ・子どもの学びの支援の拠点となるよう、土曜日や夏季休業中を中心に、『週末教育事業』（特設授業）を実施しました。（開催回数 24 回 幼児児童生徒参加者数 407 人）
- ・教育効果を高めるために、ものづくりルーム、サイエンスルームを改修するとともに、ハイブリッド型パソコン 41 台を設置するなど、教育機器・備品を整え、多岐にわたる事業を行う準備を行いました。
- ・家庭の教育力の向上のために、以下の研修会を実施しました。
  - 子育て支援研修会（1 回、参加者数 64 人）
  - 家庭教育連続講座（4 回、参加者数 94 人）
  - 不登校を考える保護者の集い（4 回、参加者数 29 人）
- ・センターが、学校生活支援ボランティアの拠点として機能するよう、登録者を一元管理するとともに、学校生活支援ボランティアの資質向上のために、研修講座を実施しました。（3 回 参加人数 106 人）

#### 5. 検証（成果、次年度以降の取組内容 等）

- ・教育センターを開設し、事業がスタートしましたが、「(仮称) 名張市総合教育センター構想について(提言)」に示す事業内容にはいたっていない状況です。
- ・子育てに悩む保護者等を支援する相談窓口として、臨床心理士につないだり、発達支援センター等関係機関との連携を深めたりします。
- ・家庭教育の充実のために、子育て支援研修会や家庭教育連続講座、不登校を考える保護者の集いを引き続き実施するとともに、各公民館や PTA が行う研修会や懇談会に派遣するリーダーの育成に着手します。
- ・土曜日や夏季休業中を中心に、引き続き『週末教育事業』（特設授業）を実施するとともに、出前授業（学校現場に出向き、週末教育事業で行った教材を用いて授業を行う）を実施します。
- ・学校支援ボランティアの充実のために、研修会を開催するとともに、各学校で組織化できるように、コーディネーターの育成を図ります。
- ・子ども発達支援センターと連携し、通常の学級に在籍し特別な教育的支援を必要とする小学校低学年を対象とした通級指導的な教室（通常の学級に在籍しながら状況に応じて特別な授業を受ける通級指導を教育センターで受ける）を開設します。
- ・名張市教育センター運営協議会を設置し、広く意見を聞きながら、事業計画などの見直しを進めるとともに、「教育センターだより」やホームページでの情報発信を行い、より多くの子どもや保護者が教育センターを利用できるよう努めていきます。